

高校の古典の上岡静子先生は東京大学を卒業したての非常に魅力的な女性で、よく学生たちとソフトボールをやっていた。自分は先生にあこがれ、一生懸命勉強し、クラスではいつもトップの成績だった。ある日、文章を読んで自分なりの解釈をすると、先生が非常に驚き、どうしてその解釈を思いついたのかと訊かれるので、辞書でそれぞれの言葉の意味を調べ、文法を考えるとこれが一番妥当な意味だと思ったと答えると、先生は、今学会でああなたの解釈が、大きな話題になっているとのこと、クラス全体が「わーすごい」ということになった。自分は他の学生と異なり、いわゆる解釈本を買わずに辞書だけで勉強していたので、褒められて本当にうれしかった。このように学生の實力を認め、評価することが、学生にとっていかに励みになるかを示す好例であるが、中間試験で満点を取ったと思っていたら、平仮名一つ間違えただけで一点引かれていたのは本当に悔しかった。